

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 自己点検・自己評価報告書 (第17号)

(令和6年度実施事業)

小規模ながら確固たる個性と存在感があり
未来に向かって新しい価値を創造する学園

令和7年11月

学校法人 三室戸学園

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学自己点検・自己評価
報告書の作成に当たって

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学は、それぞれの学則に「教育研究活動等の状況について自ら点検・評価を行う」ことを定めています。

今回実施した自己点検・自己評価は、令和6年度に実施した事業を対象としています。評価の実施に当たっては、事業計画における重点項目に焦点を当て、本学の教育研究等が学則に定める教育目的に沿って実施されているか、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を起点とした内部質保証システムが適切に機能して実行されたか、その結果が教育の改善・向上に反映されているかなどの観点から、自己点検・自己評価を行うこととしました。

また、客観性のある評価を行うため、本学園の役員・教職員以外の方に評価を行っていただきました。

少子高齢化や音楽を志す受験生が減少するなど社会的状況が大きく変化する中、本学園は令和6年度に新たに経営改善計画を策定し、それを着実に実行するべく取り組んでいる最中です。

今後も東邦音楽大学及び東邦音楽短期大学は、継続的に教育研究の充実・強化に取組み、教育研究等の質をこれまで以上に高め、有為な人材の育成に貢献して参ります。

令和7年11月

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学
学 長 高橋 幸雄

目 次

1 東邦音楽大学・東邦音楽短期大学自己点検・自己評価報告書作成者	1
2 東邦音楽大学 教育改革への取り組みに関する評価表	2
3 令和6年度東邦音楽大学における実施事業の概要（評価判定項目別）	3
4 東邦音楽短期大学 教育改革への取り組みに関する評価表	4
5 令和6年度東邦音楽短期大学における実施事業の概要（評価判定項目別）	5
【令和6年度事業報告書】	6
Ⅰ 法人の概要	6
Ⅱ 事業の概要	8
Ⅲ 項目別取組状況	9
1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	9
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組	12
Ⅳ 令和6年度コンクール等の受賞者	16
Ⅴ 令和6年度主な演奏会等実施一覧	20
Ⅵ フォトギャラリー	21
Ⅶ 財務の概要	26
1 決算の概要	26
2 有価証券、借入金等の状況	29
3 財産目録	30
4 主な財務関連用語の説明	31

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学
自己点検・自己評価報告書作成者

(順不同、敬称略)

○ 外部評価員

(大学評価)	和光市教育委員会教育部長	横 山 英 子
(短期大学評価)	文京区アカデミー推進課長	吉 本 眞 二

○ 自己点検・自己評価特別検討委員会

委員長	高 橋 幸 雄			
委 員	粕 谷 宏 美	遠 山 菜穂美	中 島 裕 紀	
	國 谷 尊 之	佐 藤 泰 弘	宮 野 陽 子	
	木 下 容 子			
	江 沢 博 昭	田 中 健 一	吉 富 浩 二	

<大学自己点検・評価部会>

委員長	中 島 裕 紀			
副委員長	粕 谷 宏 美			
委 員	山 崎 明 美	遠 山 菜穂美	國 谷 尊 之	
	佐 藤 泰 弘	木 下 容 子	伊 藤 和 広	
	益 田 善 太	大 熊 信 彦	石 橋 裕	
	田 中 健 一	吉 富 浩 二		

<短期大学自己点検・評価部会>

委員長	國 谷 尊 之			
副委員長	宮 野 陽 子			
委 員	小 林 律 子	岩 間 丈 正	岩 見 真佐子	
	井 上 淳 司			
	吉 富 浩 二			

東邦音楽大学 教育改革への取組みに関する評価表

(令和6年度実施事業分)

○ 評価

本学学則の教育の目的に沿って実施されているか、三つのポリシー（アドミSSION・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているかなどの観点から、下記により点数を記入。

- ・教育改善が大きく進んでいる……5
- ・教育改善が順調に進んでいる……4
- ・教育改善が概ね進んでいる……3
- ・教育改善がやや遅れている……2
- ・教育改善が遅れている……1

評価校	東邦音楽大学									
評価者	(外部評価) 和光市教育委員会教育部長 横山 英子					(自己評価) 自己点検・自己評価特別検討 委員会大学部会				
評価項目	評価点数					評価点数				
1 入学者選抜	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2 カリキュラムの 内容・学修方法・ 学修支援	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3 学修成果	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4 教員組織	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5 施設・設備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6 社会貢献	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

○ 外部評価のコメント

附属校の募集停止という大きな課題に対し、パフォーマンス総合芸術文化専攻（PACS）の新たなコース設定の構想をまとめるとともに、積極的なプロモーション活動を展開するなど、様々な対応が進められており、将来を見据えた改革へ取り組んでいることがうかがえます。

また、授業料の減額などにより、経済的なハードルを下げて受験者層の拡大につなげている点も高く評価できます。経済的困難を抱えながらも学びへの意欲と才能を持つ学生の受け入れが可能になることは、芸術分野における多様な人材の育成促進に寄与するものと考えます。

さらに、受験生支援として実施されているスキルアップ講習会（楽典・実技レッスンなど）は、音楽大学での学びに必要な基礎力を養う内容であり、学生自身が自信を持って、学修の開始を迎えることができる有意義な取り組みと評価できます。

外部講師を招いたFD/SD合同研修会の実施は、社会で求められる人材像についての理解を深める機会を設けており、教職員の学生支援力の向上に寄与するものと考えます。

社会貢献として、音楽鑑賞教室やファミリーコンサート、0歳からのコンサートなど、幅広い年齢層を対象とした音楽体験の機会を提供しており、包摂的な文化活動として高く評価できます。これらの取組は、音楽を通じた情操教育の推進と地域住民との交流促進に寄与し、大学の社会的使命を果たすものとして意義深いものと考えます。

※ 実施事業から、項目別に2・3点を掲載したもの

1. 入学者選抜

- ・ 学生獲得増に向けたアクションプランに基づき、行動計画(イベント年間スケジュール)を策定し募集活動を行った。
- ・ 大学、短期大学オープンキャンパスを各4回実施し、本学の紹介、レッスンの体験の場を設けた。
- ・ パフォーマンス総合芸術文化専攻(P.A.C.S)プロモーションを5回実施し、教育の内容及び専攻の魅力についてのプレゼンテーション、進学相談を実施した。
- ・ 音楽療法入門を6回実施し、音楽療法専攻の内容及びその魅力について説明し、進学相談を実施した。

2. カリキュラムの内容・学修方法・学修支援

- ・ 大学教育の質向上に向けて、令和5年度に導入した教員のティーチングポートフォリオ、学生自身の学びを振り返るため、レーダーチャートによる学修成果可視化への取り組みを継続実施している。
- ・ 入学者全員に対して楽典の課題を与えて、提出を義務付けるなど、学び方の基本を身に付けさせることとし入学前教育の充実をはかった。
- ・ 令和6年度奨学金は「東邦令和特別奨学金」として、大学生3名、大学院生2名、短大生1名に各24万円を給付し、「東邦音楽大学奨学金」として5名に各40万円を給付した。

3. 学修成果

- ・ 令和6年度「東邦ウィーンアカデミー」については、8月31日よりスタートした。年度末までに計8回、延べ106名の学生が参加し、無事終了することができた。
- ・ インターンシップ成果発表を「東邦スタンダード」授業で実施し、学修成果の共有を図った。令和6年度の成果発表日、参加者は以下のとおり。
☆ 令和6年11月6日 大学 於:川越キャンパスLH401教室
インターンシップ参加者数:7名
- ・ キャリア支援等教職員の支援により、令和7年3月卒業の大学生のうち就職希望者38名中36名が就職した(就職率95%、卒業生数74名)。

4. 教員組織

- ・ 9月4日にFD/SD合同研修会を開催し、高橋達也氏(株式会社ヨックモック部長)を講師として招き、「令和6年度で求められる人材とは」をテーマに講演が行われ、本学学生の卒業後の社会人として求められる人材育成の在り方について教職員の理解を深めた。
- ・ 令和6年度ベストティーチャー賞として河野玲子特任准教授を選出した。室内楽の授業におけるPBL方式(課題解決型授業)の実践が評価された。
- ・ 令和4年度の科学研究費「若手研究」(准教授)で、「ドイツ語のリズム規定における『弱化』の知覚と生成」が採択され、令和6年度も継続して調査・研究を行っている。なお、採択者は学会発表及び論文執筆を継続的に行うとともに、上智大学の共同研究員として本研究の高度化に取り組んでいる。

5. 施設・設備

- ・ 経営改善計画に基づき、川越キャンパスに新校舎を建設するための設計等の準備に着手した。
- ・ 修学環境整備として、川越キャンパスのパソコン教室全面リプレイスを行い、高速メモリとストレージの増強により高いスペックを備えたハードウェアとサーバーを整備し作業効率の円滑化を図った。また、最新のOSと音楽制作も可能なソフトウェア「シベリウス」を継続採用し音楽大学としての特色ある教育環境の向上に努めた。
- ・ 教育環境の向上を図るため、川越キャンパスのスタジオA・スタジオBに設置のプロジェクターを高精細な解像度と高い輝度を備えた高品位のプロジェクターに更新した。

6. 社会貢献

- ・ 川越市との協定に基づき、9月14日に市主催「2音大クラシック・コンサート」において、尚美学園大学と東邦音楽大学との競演を行い、また、11月17日に大学間連携講座「ホルストが創ったウィンドミュージック～イギリスそしてアメリカへ」を開催した。
- ・ 6月14日に東京都青梅市小学校音楽鑑賞教室(オーケストラ)を実施した。
- ・ 12月15日に川越市南古谷地域会議主催「0歳からのコンサートin南古谷」を実施した。
- ・ 2月23日に埼玉県日高市ファミリーコンサートを実施した。

東邦音楽短期大学 教育改革への取組みに関する評価表
(令和6年度実施事業分)

○ 評 価

本学学則の教育の目的に沿って実施されているか、三つのポリシー（アドミSSION・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているかなどの観点から、下記により点数を記入。

- ・教育改革が大きく進んでいる…… 5 ・教育改革が順調に進んでいる…… 4
- ・教育改革が概ね進んでいる…… 3 ・教育改革がやや遅れている…… 2
- ・教育改革が遅れている…… 1

評価校	東邦音楽短期大学									
評価者	(外部評価) 文京区アカデミー推進部 アカデミー推進課長 吉本眞二					(自己評価) 自己点検・自己評価特別検討 委員会短期大学部会				
評価項目	評価点数					評価点数				
1 入学者選抜	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2 カリキュラムの内容・ 学修方法・学修支援	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3 学習成果	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4 教員組織	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5 施設・設備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6 社会貢献	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

○ 外部評価のコメント

教育改革については、概ね進んでいるものと思われるが、入学者確保については、今後もアドミSSION・ポリシーに基づき、取り組みを進めてほしい。

※ 実施事業から、項目別に2・3点を掲載したもの

1. 入学者選抜

- ・ 学生獲得増に向けたアクションプランに基づき、行動計画(イベント年間スケジュール)を策定し募集活動を行った。
- ・ 令和6年度、音楽教養専攻に「文化教養コース」を新設して「実技教養コース」と合わせて2コース体制とし専攻に3名の社会人入学者があった。そのうち「文化教養コース」に1名が入学した。このコースは、音楽を専門的に学んでこなかったが、音楽理論、歴史、文化などを学ぶことにより音楽芸術を探究し、造詣を一層深めたいと考えている社会人向けのコースとして今年度からスタートした。

2. カリキュラムの内容・学修方法・学修支援

- ・ 大学教育の質向上に向けて、学生自身の学びを振り返るため、レーダーチャートによる学修成果可視化への取り組みに着手した。
- ・ ディプロマポリシーに示された学習成果と各授業科目との関連について学生が確実に理解できるよう、「東邦スタンダード」テキストにディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを掲載し、その関連について考察する機会を持つこととした。
- ・ 入学者全員に対して楽典の課題を与えて、提出を義務付けるなど、学び方の基本を身に付けさせることとし入学前教育の充実をはかった。

3. 学習成果

- ・ 10月に沖縄県恩納村立恩納小学校からの熱心な要請に基づき、短期大学の学生国内演奏旅行を実施した。現地の小学生達から歓迎されるとともに、楽しんでいただけの演奏会を開催することができた。
- ・ インターンシップ成果発表を「東邦スタンダード」授業で実施し、学修成果の共有を図った。
☆ 実施日 令和6年10月30日 於:文京キャンパス628教室
インターンシップ参加者数:6名
- ・ キャリア支援等教職員の支援により、短期大学においては令和7年3月卒業の卒業生12名のうち就職希望者4名全員が就職した(就職率100%)。

4. 教員組織

- ・ 9月4日にFD/SD合同研修会を開催し、高橋達也氏(株式会社ヨックモック部長)を講師として招き、「令和社会で求められる人材とは」をテーマに講演が行われ、本学学生の卒業後の社会人として求められる人材育成の在り方について教職員の理解を深めた。
- ・ 大学及び短期大学の教員が附属高等学校生徒を対象にしたスペシャルオープンキャンパスにおいて、本学の教育体制等について説明を行った。

5. 施設・設備

- ・ 災害時における対策として、学生及び教職員の安心・安全を確保するため非常食、保存水、非常用アルミブラケットを新たに整備したほか、安否確認・緊急時連絡網として導入している「さくら連絡網通信アプリ」を平常時から活用し、緊急時でも速やかに連絡が取れるよう、災害時に対する意識の向上を図った。
- ・ 文京キャンパス7号館(地下1階・地上6階)の教室・レッスン室の全ての照明設備を節電効果の高いLED照明への切り換えを完了した。令和7年度以降については川越キャンパスのLED化計画を進めていくこととし、安全で明るく快適な教育環境の向上に努めていく。

6. 社会貢献

- ・ 学園の経営構造改革のための文京キャンパス敷地売却に際しては、民間の仲介業者の協力を得て相手先を探していたところ、文京区から今後の区立小学校の改築を進める際に必要な代替校舎の用地として是非とも文京区に譲ってほしい旨の強い要請を受け、地域貢献の観点も考慮して最終的に文京区に売却することとした。
- ・ 2004(平成16)年から実施している文京アカデミー大学連携講座は、令和6年度は、ギター、合唱、ピアノの3講座について実施することができた。

令和6年度 事業報告書

[学校法人 三室戸学園]

I 法人の概要

1 基本情報

(1) 法人の名称：学校法人三室戸学園

(2) 主たる事務所の住所：東京都文京区大塚4-46-9

2 建学の精神

音楽芸術研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格形成を目途とする。

3 学校法人の沿革

学校法人三室戸学園は、学祖三室戸敬光が昭和9(1934)年11月、東京高等音楽学院
学院長在職中に私財を投じて、「東京高等音楽学院大塚分教場」を開設し、昭和
13(1938)年2月に三室戸為光がこれを継承し、東京都文京区に分離独立の上、「東邦音
楽学校」と改称し、昼夜二部制の音楽理論と実技の授業を行う全国最初の学校として
スタートした時に始まる。昭和22(1947)年に東邦中学校(男女共学)を開学、翌年には
東邦高等学校を開学し、普通科に加え、全国初となる音楽科を開設した。

昭和26(1951)年に東邦音楽短期大学(音楽科)を開学、昭和38(1963)年に埼玉県川
越市今泉に川越キャンパスを整備し、東邦第二高等学校(普通科・女子)を開学した。
なお、同高等学校は、昭和44(1969)年に普通科を音楽科に改め、平成15(2003)年に男
女共学制に移行している。

昭和40(1965)年に川越キャンパスに東邦音楽大学(音楽学部音楽学科)を開学し、
平成13(2001)年には東邦中学校、東邦高等学校、東邦第二高等学校を大学の附属学校
とした。さらに、平成16(2004)年に東邦音楽大学大学院(音楽研究科修士課程)を開設
した。

令和5(2023)年度には、東邦音楽短期大学の入学者の現状に鑑み、総合的な判断か
ら入学定員の変更(50名→20名)を行った。

4 設置する学校、学部、学科

○東邦音楽大学大学院 [音楽研究科]

○東邦音楽大学 [音楽学部音楽学科]

○東邦音楽短期大学 [音楽科]

○東邦音楽大学附属東邦高等学校(全日制の課程) [音楽科]

○東邦音楽大学附属東邦第二高等学校(全日制の課程) [音楽科]

○東邦音楽大学附属東邦中学校

○東邦音楽学校

5 学生・生徒数（令和6年5月1日現在）

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
東邦音楽大学大学院	15 人	17 人	30 人	38 人
東邦音楽大学	100 人	47 人	420 人	258 人
東邦音楽短期大学	20 人	17 人	40 人	35 人
附属東邦高等学校	60 人	20 人	180 人	47 人
附属東邦第二高等学校	40 人	27 人	120 人	75 人
附属東邦中学校	40 人	11 人	120 人	38 人
東邦音楽学校	一人	一人	一人	一人

6 収容定員充足率（令和6年5月1日現在）

学校名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
東邦音楽大学	57.6%	63.6%	67.6%	67.1%	61.4%
東邦音楽短期大学	58.0%	35.0%	27.0%	45.7%	87.5%

7 役員の概要（令和6年5月1日現在）

（1）定員数

理事：5人以上7人以内、監事：2人

（2）役員の氏名

理事長：三室戸東光

理 事：粕谷宏美、太田恵雄、石橋達成、佐浦國雄

監 事：上田 孝、和田正夫

8 評議員の概要（令和6年5月1日現在）

定員数：11人以上23人以内、現員数：13人

9 教職員の概要（令和6年5月1日現在） ※（ ）うち特任教員数

学校名	教授	准教授	専任講師	講師	計
東邦音楽大学大学院	7 (7)	2 (2)	0	6	15
東邦音楽大学	15 (12)	14 (7)	5 (2)	86	120
東邦音楽短期大学	3	1	3 (2)	4	11
計	25	17	8	96	146

学校名	校長	教頭	教諭	講師	計
東邦中学校	1	1	5	6	11
東邦高等学校			5	9	14
東邦音楽学校		0	0	12	12
東邦第二高等学校	1	1	7	11	18
計	2	2	17	38	55

※校長、教頭は高校の教員にカウント

キャンパス	事務職員
文京キャンパス	27
川越キャンパス	18

Ⅱ 事業の概要

令和 6 年度は、第四期中期計画（令和 3（2021）～令和 7（2025）年）が掲げる 5 年計画の 4 年目であった。

令和 4（2022）年 12 月に文部科学省学校法人運営調査委員による訪問調査を受審し指導・助言を受けたことを契機に、改めて本学園の経営状況を調査・分析し、このままでは学園の将来が見通せないという危機感をもって、令和 5 年度に新たな経営改善計画の策定に取り組み、令和 6 年 6 月に策定することができた。同年 7 月 1 日にこの計画を文部科学省に報告したところ、同省から同年 8 月 28 日付けで、本法人の対応状況について「一定の改善を確認」したので、「経営改善計画を着実に実施し経営基盤の安定確保に努める」という趣旨の通知を受けとった。

その後、計画の骨子となる事項は重点事項に位置付け、令和 6 年度後半は早速実施に取り組んだ。計画の内容は多岐にわたるので、まだまだ継続中であるが、取組状況について以下に述べるとともに、重点事項以外の教育研究及び業務運営についても概要をまとめた。

【重点事項】

新たな経営改善計画において、次の 2 つを重点事項（計 5 項目）と位置付け計画を策定し、実施に向けて取り組みを進めた。

1 経営基盤の安定化

（1）収支バランスの改善

- ・ 過去 10 年間の財務状況を分析し、課題を抽出した。
- ・ 学園の保有資産を精査し、経営資金（投資資金）確保のための方策を検討した結果、文京キャンパス敷地を売却し資金を確保することとした。
- ・ 令和 6 年 11 月から令和 7 年 1 月にかけて敷地売却の手続きを進め、最終的に文京区に売却することを決定した。
- ・ 中期財務計画を策定し、収支バランス均衡化の道筋を明らかにした。

（2）文京キャンパスの耐震化問題

- ・ 旧耐震基準のままの 2 号館を含め、文京キャンパス敷地の売却により文京キャンパスの建物はすべて令和 8 年度末をもって使用を終了する。その後文京区に引き渡し、取り壊しとなる見通し。

（3）2 キャンパス体制の最適化

- ・ 令和 8 年度末をもって文京キャンパスを閉鎖することとし、川越キャンパスへの移転・統合を決定した。文京キャンパスの大学院、短期大学及び大学パフォーマンス総合芸術文化専攻は、川越キャンパスに移転することとした。
- ・ 文京キャンパスの閉鎖に伴い、附属東邦中学校及び東邦高等学校については存続ができないため、令和 7 年度から生徒募集を停止することとし、関係各方面に説明・報告等を行い、父母・保証人はじめ関係者の理解を求めた。

2 収容定員の充足

（1）入学者（学生・生徒）確保のための制度改革

- ・ 基本的な制度設計（入試方法、授業料、特待生制度など）について見直しを進め

た。教職実践専攻及び音楽療法専攻については、カリキュラム改革と合わせて授業料の改定（減額）を行った。また、パフォーマンス総合芸術文化専攻の新たなコース設定について構想をまとめた。

(2) 教育改革（教育内容・方法の改善）の推進

- ・ 各専攻の教育内容・方法を見直し、技術の刷新や社会の変化に対応した教育改革を進めている。
- ・ 教育の実施体制について現状と課題を整理して改善策を策定し、実施可能なことから実行に移すこととしている。

Ⅲ 項目別取組状況

令和6年度に実施した取組の主な内容は、以下に示すとおりである。

1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組

(1) 大学及び短期大学等の教育に関する目標を達成するための取組

① 学生募集活動

- ・ 学生獲得増に向けたアクションプランに基づき、行動計画（イベント年間スケジュール）を策定し募集活動を行った。
- ・ 大学、短期大学オープンキャンパスを各4回実施し、本学の紹介、レッスンの体験の場を設けた。（6月、7月、8月、3月）
- ・ パフォーマンス総合芸術文化専攻プロモーションを5回実施し、教育の内容及び専攻の魅力についてのプレゼンテーション、進学相談を実施した。（6月、7月、9月、12月、3月）
- ・ 音楽療法専攻プロモーションを6回実施し、音楽療法専攻の内容及びその魅力について説明し、進学相談を実施した。（5月、6月、9月、11月、12月、2月）
- ・ 総合型選抜の対策として基礎力診断を5回実施した。（6月、7月、8月、9月、10月）
- ・ 受験生支援としてスキルアップ講習会を6回実施し、楽典、聴音、実技レッスン、小論文の指導を行った。（6月、7月、8月、9月、10月、12月）
- ・ 学生募集を目的とした高等学校訪問により、吹奏楽指導54校、ガイダンス・模擬授業41校、学校挨拶（学校紹介等のみ）11校を、それぞれ実施した。

② 教育内容・教育成果等の充実

- ・ 大学教育の質向上に向けて、令和5年度に導入した教員のティーチングポートフォリオ、学生自身の学びを振り返るため、レーダーチャートによる学修成果可視化への取り組みを継続実施している。
- ・ インターンシップ成果発表を「東邦スタンダード」授業で実施し、学修成果の共有を図った。令和6年度の成果発表日、参加者は以下のとおり。

☆ 令和6年11月6日 大学 於：川越キャンパス LH401 教室

インターンシップ参加者数：7名

☆ 令和6年10月30日 短大 於：文京キャンパス 628 教室

インターンシップ参加者数：6名

③ 教育の実施体制等の充実・強化

- ・ 教職員の資質・能力向上のための FD/SD 研修会を 9 月 4 日に実施した。

【講 師】高橋 達也氏

((株) ヨックモックカスタマーサービスマネジメント室部長)

【テーマ】「令和 society で求められる人材」

- ・ 令和 6 年度ベストティーチャー賞として河野玲子特任准教授を選出した。

④ 学生への支援の充実

- ・ 入学者全員に対して楽典の課題を与えて、提出を義務付けるなど、学び方の基本を身に付けさせることとし入学前教育の充実をはかった。
- ・ 令和 6 年度奨学金は「東邦令和特別奨学金」として、大学生 3 名、大学院生 2 名短大生 1 名に各 24 万円を給付し、「東邦音楽大学奨学金」として 5 名に各 40 万円を給付した。
- ・ キャリア支援等教職員の支援により、令和 7 年 3 月卒業の大学生 74 名のうち就職希望者 38 名中 36 名が就職した（就職率 95%）。また、短期大学においても卒業生 12 名のうち就職希望者 4 名全員が就職した（就職率 100%）。

⑤ 国際化の推進

- ・ 令和 6 年度「東邦ウィーンアカデミー」については、8 月 31 日よりスタートした。年度末までに計 8 回、延べ 106 名の学生が参加し、無事終了することができた。

(2) 附属学校等に関する目標を達成するための取組

① 生徒及び受講生の確保

- ・ 学生獲得増に向けたアクションプランに基づいて、「令和 6 年度生徒獲得増に向けた行動計画」を策定し、募集活動を行った。
- ・ 卒業生情報センターによる音楽教室等を主宰する卒業生訪問を行い、入学者の確保に努めた。その結果、令和 7 年度入学者として附属東邦第二高等学校 7 名を確保した。

② 附属学校における教育の充実

- ・ 東邦中学校と東邦高等学校の合同編成や第二高等学校全学年の合同編成によりウインドオーケストラを実施するなど、実践的な授業を行った。
- ・ 少人数制による One to One のきめ細かい教育の実践に努めた。また、大学、短期大学の教授陣による個人レッスンを実施した。
- ・ 附属東邦中学校・東邦高等学校の令和 7 年度新入生募集を停止したため、急遽他校への進学が必要となった生徒に対して、高校受験のための補習授業やソルフェージュの強化、夏季休業中の学科の補講などを実施した。

③ 高大接続と相互連携の強化

- ・ 本学の 2 つの附属高等学校の生徒を対象に「体験授業」を実施した。
- ・ 附属高校と大学及び短期大学が相互の連携強化ができるよう、責任者会議を各校と 2 回開催した。
- ・ 大学及び短期大学の教員が附属高等学校生徒を対象にしたスペシャルオープンキャンパスにおいて、本学の教育体制等について説明を行った。

(3) 研究に関する目標を達成するための取組

① 研究の推進と研究水準の高度化

- ・ 在外研究員制度の一環として、外部資金による在外研究取扱規程案を作成した。
- ・ 令和4年度の科学研究費「若手研究」(准教授)で、「ドイツ語のリズム規定における『弱化』の知覚と生成」が採択され、令和6年度も継続して調査・研究を行った。なお、採択者は学会発表及び論文執筆を継続的に行うとともに、上智大学の共同研究員として本研究の高度化に取り組んでいる。
- ・ 令和6年度には、新たに1名の教員が科学研究費に応募した。
- ・ 大学院学生及び学部生に対する研究指導を充実させるとともに、研究倫理教育を実施した。
- ・ 本学音楽療法専攻4年生1名が、第1回日本音楽療法学会学術大会優秀発表賞を受賞した。

② 研究推進体制等の充実

- ・ 研究推進・倫理委員会において、教員及び学生の研究推進にかかる具体的方策を検討し、関係部門と連携を図り、研究活動の推進に努めた。

③ 研究成果の積極的な公表

- ・ 教員の研究成果をまとめ、公表するため、研究紀要第32号を発行した。
- ・ 学園ウェブサイトの「教育研究者一覧」について、掲載内容の充実に努めた。

(4) 社会連携及び社会貢献に関する目標を達成するための取組

① 社会連携事業の推進

- ・ 川越市との協定に基づき、9月14日に市主催「2音大クラシック・コンサート」において、尚美学園大学と東邦音楽大学との競演を行い、また、11月17日に大学間連携講座「ホルストが創ったウィンドミュージック〜イギリスそしてアメリカへ」を開催した。
- ・ 2004(平成16)年から実施している文京アカデミー大学連携講座は、令和6年度は、ギター、合唱、ピアノの3講座について実施することができた。
- ・ 6月11日に南古谷小学校音楽鑑賞教室(ウインドオーケストラ)を開催した。
- ・ ふじみ野市との協定に基づき、6月12日にふじみ野市小学校音楽鑑賞教室(ウインドオーケストラ)を開催した。
- ・ 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)連携協定に基づき、TJUP公開講座「音楽を通じたコミュニケーション〜みんなで楽器演奏等の体験をしてみよう〜」を10月19日に実施した。
- ・ TJUP オンディマンド公開講座「武蔵国の19校を通じて埼玉の大学を知る2024 名物先生大集合!」に参加し、オンディマンド講座を提供した。
- ・ TJUP 教育支援文化講座として、演奏会「音楽を楽しもう2024」を12月1日に城西大学坂戸キャンパスで実施した。
- ・ “楽しく、学ぶ、体験する”をテーマとして、「TJUP わくわくランド2024」を3月22日東邦音楽大学にて開催し、TJUPに加盟している学校や自治体、企業が特色ある企画を地域住民に提供し、地域貢献を行った。

【参考】自治体等との協定締結一覧

協 定 締 結 先	締結年月
埼玉県川越市	平成 19 年 11 月
東京都文京区	平成 20 年 3 月
新国立劇場運営財団	平成 27 年 6 月
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	平成 27 年 12 月
埼玉県ふじみ野市	平成 28 年 5 月
埼玉東上地域大学教育プラットフォーム (TJUP) 発足	平成 30 年 9 月
埼玉県和光市・和光市文化振興公社	平成 31 年 4 月

② 社会貢献活動の推進

- ・ 6 月 14 日に東京都青梅市小学校音楽鑑賞教室（オーケストラ）を実施した。
- ・ 12 月 15 日に川越市南古谷地域会議主催「0 歳からのコンサート in 南古谷」を実施した。
- ・ 2 月 23 日に埼玉県日高市ファミリーコンサートを実施した。
- ・ 10 月に沖縄県恩納村立恩納小学校からの熱心な要請に基づき、短期大学の学生国内演奏旅行を実施した。現地の小学生達から歓迎されるとともに、楽しんでいただける演奏会を開催することができた。
- ・ 附属中学校・高等学校は、ユネスコパートナーシップ世界遺産トーチランコンサート協会と共催で、東京都文京区「文京シビック小ホール」（4 月 27 日）並びに北区北とぴあ「つつじホール」（10 月 11 日）において、クラシックコンサートを開催した。また、渋谷区文化センター大和田さくらホール（11 月 25 日）で開催された世界遺産トーチランコンサートに 31 名が参加した。
- ・ 5 月 22 日に文京シビック区民ひろばで「スクールコンサート」、6 月 27 日に都立大塚病院で「ボランティアコンサート」、11 月 6 日に文京シビック小ホールで「防火のつどい」での演奏を実施した。

2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組

(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための取組

① 組織運営機能の強化

- ・ 私立学校法の改正に基づき、学校法人三室戸学園寄附行為の改正案を作成し、令和 7 年 3 月 13 日付けで文部科学大臣の変更認可を取得した。
- ・ 寄附行為改正に基づき、理事会規程、評議員及び評議員会規程、役員等報酬支給基準規程の一部改正を行った。
- ・ 大学(短期大学、附属学校等を含む)の円滑な運営を図ることを目的とする「責任者会議」を 9 月 2 日（対面）と 3 月 31 日（書面）に開催し、各部門の情報共有と連携強化促進に努めた。
- ・ 9 月 4 日に FD/SD 合同研修会を開催し、高橋達也氏（株式会社ヨックモックカスタマーサービスマネジメント室部長）を講師として招き、「令和 society で求められる人材とは」をテーマに講演が行われ、本学学生の卒業後の社会人として求め

られる人材育成の在り方について教職員の理解を深めた。

② 教育研究組織の充実・強化

- ・ ICT に関する知識の習得を目的として、外部団体が主催する ICT 研修会に事務職員を受講させ職員の資質向上を図った。
- ・ 大学・短大の後援会組織の総会に理事長ほか 7 名の教職員が出席したほか、同窓会組織の邦友会が企画する事業に卒業生情報センター職員が出席し円滑な協力関係の維持強化を図った。

③ 事務等の効率化・合理化の推進

- ・ 業務と組織の効率化を図るため、事務職員の適正な人事配置や業務効率の向上を図るため他部署との兼務発令をするほか配置換えを積極的に行った。また、組織の活性化を図るため、新卒職員の採用や事務補佐員から嘱託職員の任用換えなど若手職員の登用に務めた。また、定年退職者を再雇用し優秀な職員を継続雇用することにより生産性を低下せずに経験を活かした業務が行えるほか、採用コストや教育コストの削減効果も高く、若手の人材育成の強化にも繋がるものとなった。
- ・ 事務組織の円滑な業務の遂行を図るため、附属学校及び大学組織の管理職を中心として組織する責任者会議を 7 月と 3 月に開催し、業務報告のほか各部門に関する課題等の解決に向け協議し連携を図った。
- ・ 附属学校教諭及び事務職員全員に対して、日常業務の実態を把握するとともに今後の組織体制の在り方及び人事計画の参考とするため個別ヒアリングを実施し、業務改善や労働環境の向上、適正な人事配置に務めた。

(2) 財務内容の改善に関する目標を達成するための取組

① 収入の確保

- ・ 学園の過去 10 年間の財務状況を分析し、収入・支出の傾向と課題を洗い出し、今後の財務計画の参考にするための資料を作成した。
- ・ 部門別の学生生徒等納付金データを参考に、学生募集活動の基礎資料として活用した。

② 経費の抑制

- ・ 近年の決算分析等を基に、関係部署において、真に必要とする経費執行の精査を行い経費節減に努めた。
- ・ 前年度実績を基に、経費執行の精査を行い、管理的経費の節減に努めた。

③ 資産の運用管理の改善

- ・ 複数の金融機関による引き合いの実施など、資金運用計画を作成し、効率的かつ効果的に資金運用を行った。
- ・ 学園の経営構造改革のための文京キャンパス敷地売却に際しては、民間の仲介業者の協力を得て、対象を限定した競争入札制度を採用して手続きを進めていたところ、文京区が強い関心を示してきたので、地域貢献の観点等から文京区に売却することとした。今後は、この売却資金を有効に活用し学園の継続的な発展を目指していく。

(3) 施設設備整備、安全管理及び法令順守等に関する目標を達成するための取組

① 施設設備の整備・活用等

- ・ 経営改善計画に基づき、川越キャンパスに新校舎を建設するための設計等の準備に着手した。
- ・ 修学環境整備として、川越キャンパスのパソコン教室全面リプレイスを行い、高速メモリとストレージの増強により高いスペックを備えたハードウェアとサーバーを整備し作業効率の円滑化を図った。また、最新の OS と音楽制作も可能なソフトウェア「シベリウス」を継続採用し音楽大学としての特色ある教育環境の向上に努めた。
- ・ 学園創立 50 周年記念館のトイレについて一部改修工事を行い、衛生環境の確保に努めた。その他、グランツザールシーリング系統の空調設備について全面リニューアルを行い、高効率空調設備を整備し CO2 の削減や電気代の削減のほか、インバーター制御による消費エネルギーの効率化を図り、冷暖房による快適な施設環境を維持することが出来た。その他、経年劣化の設備について順次改修工事を実施していくこととする。
- ・ 文京キャンパス 7 号館（地下 1 階・地上 6 階）の教室・レッスン室の全ての照明設備を節電効果の高い LED 照明への切り換えを完了した。令和 7 年度以降については川越キャンパスの LED 化計画を進めていくこととし、安全で明るく快適な教育環境の向上に努めていく。

② 安全管理の充実・強化

- ・ 消防計画に基づき附属学校生及び大学生、教職員の合同による防災避難訓練を実施したほか、教職員組織で構成する防火防災対策委員会を開催、大規模災害が発生したことを想定した動画の視聴や昨今多発する自然災害への備え等、防災に対する重要性を理解するとともに危機意識を高めた。また、SDGs の取組の一つとして賞味期限前の非常食を学生に配布、非常食の体験とともに廃棄の減量削減に努めた。
- ・ 教育環境の向上を図るため、川越キャンパスのスタジオ A・スタジオ B に設置のプロジェクターを高精細な解像度と高い輝度を備えた高品位のプロジェクターに更新し、視認性を高めることのほか、プロジェクターの活用により板書時間の削減や幅広い授業展開を行うことができるものとなった。
- ・ 災害時における対策として、学生及び教職員の安心・安全を確保するため非常食、保存水、非常用アルミブラケットを新たに整備したほか、安否確認・緊急時連絡網として導入している「さくら連絡網通信アプリ」を平常時から活用し、緊急時でも速やかに連絡が取れるよう、災害時に対する意識の向上を図った。
- ・ 附属東邦第二高等学校で起こった自死事案について、令和 6 年 7 月に特別調査委員会を設置してヒアリング調査等を行い、同年 10 月 30 日付けで調査報告書をまとめ、遺族側と埼玉県学事課に報告した。その後、第三者委員会を設置して調査報告書の検証作業を継続している。

③ 法令順守の徹底等

- ・ コンプライアンスに対する取り組みとして、研究不正防止に関する相談窓口、公益通報相談窓口、ハラスメントに対する対策、育児・介護休業制度の対応などコンプライアンスに関する情報を本学 Web サイトに掲載し広く周知した。
- ・ 教員オリエンテーションにおいて、令和 5 年度に策定した「障がい者に関する基本方針」に基づき、多様な学生に対する教育支援に関する基本的な考えや配慮の在り方など、教員への共通理解と意識の向上を図った。
- ・ 労働基準法の一部改正に伴い、2024 年 4 月 1 日からルール変更となった雇用する労働者に対する労働条件の明示について、明示事項が増えたことにより非常勤講師等の雇用契約書を一部見直し対応した。

(4) 自己点検・自己評価及び情報公開等に関する目標を達成するための取組

① 自己点検・自己評価の充実

- ・ 令和 6 年 11 月、令和 5 年度事業を対象とした「東邦音楽大学・東邦音楽短期大学自己点検評価報告書」を作成・公表した。

② 情報公開及び情報発信の推進等

- ・ 本学園に関する学校基本データ等の教育情報及び財務情報について、新たに公表項目を増やして学園 Web サイトに掲載し、広く周知した（6 月）。

コンクール等の受賞歴

【令和6年度】大学、短期大学、大学院

コンクール等の名称	部 門	賞の名称	受賞者氏名	学 校	専攻・学年	備考
第33回日本クラシック音楽コンクール	全国大会	入選	梅本 直明	アドバンスコース	管弦打1年	R5年度 大学院修了
	全国大会 打楽器部門 大学の部	第5位	霜田 花暖	大学	管弦打楽器 専攻2年	
	全国大会 打楽器部門 大学の部	第5位	日輝 大和	大学	管弦打楽器 専攻2年	
第95回よこはま新人演奏会 オーディション		合格 出演	梅本 直明	アドバンス コース	管弦打1年	R5年度 大学院修了
第26回 九州音楽コンクール	管・打楽器部門 大学生クラス	最優秀賞	梅本 直明	アドバンス コース	管弦打1年	R5年度 大学院修了
第46回全日本ジュニアクラ シック音楽コンクール	全国大会 木管楽器部門 大学生の部	第2位	池田 一翔	大学院	管弦打 領域1年	
The Global Musical Arts Competition 2024 Concerto Competition	Strings Division III	3rd PLACE	小川 尚也	大学	Konzertfach (演奏専攻) 3年	
2024 EUROASIA Online Competition	Category Over 23	4th Prize	王 中航	大学院	管弦打 領域2年	
第26回“万里の長城杯” 国際音楽コンクール	ピアノ部門	第5位	岩澤 ことね	大学	Konzertfach (演奏専攻) 3年	
	打楽器部門 大学の部	第3位	日輝 大和	大学	管弦打楽器 専攻2年	
第12回 豊田声楽コンクール	大学・ 一般A部門	奨励賞	林田 佐保子	総合芸術 研究所	声楽専攻 ／声楽領域	H30年度 大学卒業 ／R2年度 大学院修了
第3回ドビュッシー 国際ピアノコンクール	G部門	第1位 邦人作品賞 グランプリ	廣瀬 靖子	総合芸術 研究所	声楽専攻 ／声楽領域	H30年度 大学卒業 ／R2年度 大学院修了
	G部門	第2位	伊藤 曜子	大学院	ピアノ 領域2年	
全日本管楽コンクール2024	全国大会 一般プロ 部門(U30)	第1位	高澤 沙季	東邦音楽大学 研究員	管弦打楽器 専攻 ／管弦打領域	H30年度 大学卒業 ／R2年度 大学院修了
第6回 日本奏楽コンクール	弦楽器部門 大学の部	第1位	小川 尚也	大学	Konzertfach (演奏専攻) 3年	
第89回 T I A A 全日本 クラシック音楽コンサート		審査員賞	日輝 大和	大学	管弦打楽器 専攻2年	

コンクール等の名称	部 門	賞の名称	受賞者氏名	学 校	専攻・学年	備考
第47回全日本ジュニア クラシック音楽コンクール	全国大会 声楽部門 大学生の部	第4位	蘇 華晔	大学	声楽専攻	R6年度卒業
2024年度第7回 東京国際 マリンバコンクール		第1位	針谷 杏	アドバンス コース	管弦打1年	R5年度 大学卒業
		第4位	秋元 祐樹	大学	管弦打楽器 専攻2年	
		入選	金澤 里彩子	大学	Konzertfach (演奏専攻) 2年	
2024年度 第3回STROANメ ンバー		楽器貸与 アーティスト	小川 尚也	大学	Konzertfach (演奏専攻) 3年	
第34回 日本クラシック 音楽コンクール	地区本選	優秀賞	佐久間 千夏	大学	管弦打楽器 専攻3年	
	地区本選	優秀賞	根木 早苗	大学院	声楽領域2年	
第26回 日本演奏家コンクール	声楽部門 一般Aの部	入選	久保田 由美	大学院	声楽領域	R5年度修了
	声楽部門 一般Aの部	入選	曾 柏超	大学院	声楽領域2年	
	声楽部門 大学生の部	特別賞	蘇 華晔	大学	声楽専攻	R6年度卒業
第75回 福井県音楽コンクール	マリンバ部門 大学・一般の部	福井県 教育委員会賞	服部 華	大学	管弦打楽器 専攻3年	
第54回 フランス音楽コンクール	ピアノ部門	1位 カンセイ・ ド・アシャ 文化財団賞	清原 一龍	大学	Konzertfach (演奏専攻) 4年	
	ピアノ部門	入選	余 浩	大学院	ピアノ 領域2年	
	ピアノ部門	入選	石川 のえみ	総合芸術 研究所	ピアノ領域	R3年度 大学院修了
第90回 T I A A 全日本 クラシック音楽コンサート		優秀賞	高澤 沙季	東邦音楽大学 研究員	管弦打楽器 専攻 ／管弦打領域	H30年度 大学卒業 ／R2年度 大学院修了
第7回 日本トロンボーン コンペティション	カルテット 部門	第3位	越仲 凜久	大学	管弦打楽器 専攻3年	Trombone Quartet なんこや
			中島 聖羅	大学	管弦打楽器 専攻 R5年度卒業	
			照屋 和希	アドバンス コース	管弦打 R5年度卒業	
			本多 謙司	大学	管弦打楽器 専攻4年	
第16回日本トロンボーン 学生音楽コンクール	大学生の部 独奏部門	第3位	越仲 凜久	大学	管弦打楽器 専攻3年	

コンクール等の名称	部 門	賞の名称	受賞者氏名	学 校	専攻・学年	備考
IX.DANUBIA TALENTS INTERNATIONAL MUSIC COMPETITION	PIANO Section /D Category	III.Prize	鶴岡 智優	アドバンス コース	ピアノ1年	R5年度 大学院修了
第34回日本クラシック 音楽コンクール	全国大会	入選	根木 早苗	大学院	声楽領域2年	
	全国大会	入選	鈴木 勇	大学	声楽専攻4年	
	全国大会 オーボエ部門 大学の部	第3位	水間 遊来名	大学	管弦打楽器 専攻3年	
第8回 印西国際音楽コンクール	ピアノ部門 プロフェッショ ナル部門	奨励賞	清原 一龍	大学	Konzertfach (演奏専攻) 4年	

【令和6年度】附属東邦中学校・東邦高等学校、附属東邦第二高等学校

コンクール等の名称	部 門	賞の名称	受賞者氏名	学 校	専攻・学年	備考
全日本ピアノコンクール 2024	中学生部門	奨励賞	中村 海人	東邦中学校	ピアノ 中学1年	
第47回全日本ジュニア クラシック音楽コンクール	ピアノ部門中学2 年生の部	5位	川上 侑輝	東邦中学校	ピアノ 中学2年	
第34回日本クラシック 音楽コンクール全国大会	ピアノ部門中学校 男子の部	5位	川上 侑輝	東邦中学校	ピアノ 中学2年	
第47回全日本ジュニア クラシック音楽コンクール	声楽部門中学生の 部	審査員賞	林 舞衣	東邦中学校	声楽 中学2年	
第48回ピティナ・ピアノ コンペティション	E級全国大会	入選	柏本 桃香	東邦中学校	ピアノ 中学3年	
第35回川口市青少年 ピアノコンクール	E部門	1位 グランプ リ	長山 彰汰	東邦高等学校	ピアノ 高校1年	
第18回草加市演奏家協会 クラシック音楽ジュニア コンクール	E部門	草加市演奏家協 会奨励賞	河野 尊	東邦高等学校	サキソフォン 高校3年	
第13回ヤングクラリネッ ティストコンクール	ジュニアB部門	入選	立山 翔	東邦高等学校	クラリネット 高校3年	
第12回中高生のための Soloコンクール	小太鼓	銀賞	新沼 一杜	東邦高等学校	打楽器 高校3年	
第34回日本クラシック 音楽コンクール全国大会	打楽器部門	入選	新沼 一杜	東邦高等学校	打楽器 高校3年	
第46回全日本ジュニア クラシック音楽コンクール	金管楽器部門	4位	渡辺 巧	東邦高等学校	チューバ 高校3年	
第3回 高校生のための 「ミュージカル」歌唱 コンクール	歌唱コンクール	奨励賞	三枝 愛芽	東邦第二高等学校	声楽 高校3年	
2024 第34回 日本 クラシック音楽コンクール 全国大会	管弦打楽器 部門 (tuba)	第4位 (1位～3位該当な し)	藤崎 太一	東邦第二高等学校	管弦打楽 (tuba) 高校3年	
第3回 世田谷音楽コン クール		奨励賞	保永 夏実	東邦第二高等学校	声楽 高校3年	
第7回 TOKYO 全国 ミュージカルコンクール第 11回 座間 全国 ミュージカルコンクール 同時開催	シニア部門	第6位 審査員特別賞	松本 美穂	東邦第二高等学校	声楽 高校3年	
	シニア部門	第2位	森田 月渚	東邦第二高等学校	声楽 高校3年	
2024第2回プリマ ヴェーラ声楽コンクール		第4位	三枝 愛芽	東邦第二高等学校	声楽 高校3年	
2024 第2回 東京国 際管弦声楽コンクール	高校生の部	第5位	森田 月渚	東邦第二高等学校	声楽 高校3年	
第25回高校生のための歌 唱コンクール	シニア部門	奨励賞	森田 月渚	東邦第二高等学校	声楽 高校3年	
2024第26回日本 演奏家コンクール	声楽部門 高校生の部	第2位	山川 信也	東邦第二高等学校	声楽 高校3年	

令和6年度 主な演奏会等実施一覧

2024年	演奏会・イベント名	内容	会場
5月22日 水	シビックコンサート	附属中高生	文京シビックセンター B2F区民ひろば
6月11日 火	南古谷小学校音楽鑑賞教室	ウインドオーケストラ	東邦音楽大学 グランツザール
6月12日 水	ふじみ野市音楽鑑賞教室	ウインドオーケストラ	東邦音楽大学 グランツザール
6月14日 金	青梅市小学校音楽鑑賞教室	オーケストラ	福生市民会館 さくらホール
6月27日 木	大塚病院 院内ミニコンサート	附属中高生	都立大塚病院 地下1階ホール
7月13日 土	第229回定期研究発表演奏会〔ソロの部〕	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
7月24日 水	シビックコンサート	声楽	文京シビックセンター B2F区民ひろば
8月5日 月	七夕コンサート	フルートアンサンブル	ふじみ野交流センター
8月25日 日	TOHOサマーコンサート2024	オーケストラ	東邦音楽大学 グランツザール
8月29日 木	大塚病院 院内ミニコンサート	クラリネットアンサンブル	都立大塚病院 地下1階ホール
9月14日 土	2音大クラシックコンサート	ウインドオーケストラ	ウェスタ川越 大ホール
9月15日 日	文の京 カレッジコンサート	大学院室内楽	文京シビックホール 小ホール
10月5日 土	東邦ミュージック・フェスティバル2024		東邦音楽大学 川越キャンパス
10月6日 日	東邦ミュージック・フェスティバル2024		東邦音楽大学 川越キャンパス
10月20日 日	東松山アートフェスタ	金管5重奏	高坂彫刻プロムナード
	キッチンコンサート	サクソカルテット	大東ガス プチフラム富士見
11月7日 木	小さな子どものためのコンサート	打楽器アンサンブル	キラリ富士見 メインホール
11月9日 土	一歩いっぽ祭り 演奏依頼	ピアノ・ヴァイオリン・チェロ	大塚福祉作業所
11月16日 土	第230回定期研究発表演奏会〔合唱の部〕	合唱	東邦音楽大学 グランツザール
11月24日 日	第231回定期研究発表演奏会〔オーケストラの部〕	オーケストラ	文京シビックホール 大ホール
12月1日 日	第15回音楽大学オーケストラ・フェスティバル	オーケストラ	すみだトリフォニーホール
12月14日 土	第232回定期研究発表演奏会〔ウインドオーケストラの部〕	ウインドオーケストラ	ウェスタ川越 大ホール
12月15日 日	0歳からのコンサート in 南古谷	声楽・ピアノ・チェロ	川越市東部地域ふれあいセンター
12月18日 水	シビックコンサート	ハンドベル	文京シビックセンター B2F区民ひろば
12月21日 土	ユニクス南古谷サウンドマーケット	ハンドベル	ユニクス南古谷(野外)
	東邦音楽大学大学院 1年生演奏会	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
12月22日 日	東邦音楽大学大学院 1年生演奏会	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
2025年	演奏会・イベント名	内容	会場
1月11日 土	TOHOコンサート2025 陸上自衛隊東部方面音楽隊&東邦音楽大学ウインドオーケストラ	ウインドオーケストラ	東邦音楽大学 グランツザール
1月13日 月	ニューイヤークンサートin南古谷		東邦音楽大学 グランツザール
1月19日 日	中学生・高校生のための第21回日本管弦打楽器ソロ・コンテスト 受賞記念演奏会 ～文部科学大臣賞選考会～	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
2月8日 土	東邦音楽大学大学院 修士課程学位審査修了演奏会	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
2月9日 日	東邦音楽大学大学院 修士課程学位審査修了演奏会	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
2月11日 火	東邦音楽大学大学院 修士課程学位審査修了演奏会	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
2月13日 木	大塚病院 院内ミニコンサート	声楽	都立大塚病院 地下1階ホール
2月23日 日	日高市ファミリーコンサート	ウインドオーケストラ	日高市文化体育館ひだかアリーナ
2月26日 水	シビックコンサート	トロンボーンアンサンブル	文京シビックセンター B2F区民ひろば
3月8日 土	東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 卒業代表演奏会	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
3月13日 木	大塚病院 院内ミニコンサート	ピアノ	都立大塚病院 地下1階ホール
3月29日 土	第14回 音楽大学フェスティバルオーケストラ2025	オーケストラ	ミューザ川崎シンフォニーホール

フォトギャラリー

6月8日	土	第12回 北関東甲信越音楽系高等学校演奏会
------	---	-----------------------



7月13日	土	第229回 定期研究発表演奏会[ソロの部]
-------	---	-----------------------



9月14日	土	2音大クラシックコンサート[ウェスタ川越 大ホール]
-------	---	----------------------------



10月5日	土	東邦ミュージック・フェスティバル2024
10月6日	日	



10月11日	金	東邦音楽大学附属東邦中学校・東邦高等学校クラシックコンサート [北とぴあ つつじホール]
--------	---	---



10月9日	水	東邦音楽短期大学 卒業記念修学演奏旅行[沖縄県恩納村立恩納小学校]
-------	---	-----------------------------------



11月16日	土	第230回 定期研究発表演奏会[合唱の部]
--------	---	-----------------------



11月24日	日	第231回 定期研究発表演奏会[オーケストラの部] [文京シビックホール 大ホール]
--------	---	---



12月1日	日	第15回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル [すみだトリフォニーホール]
-------	---	---



12月14日	土	第232回 定期研究発表演奏会[ウインドオーケストラの部] [ウェスタ川越 大ホール]
--------	---	--



12月21日	土	東邦音楽大学大学院 1年生演奏会
12月22日	日	



1月11日	土	TOHOコンサート2025 (陸上自衛隊東部方面音楽隊 & 東邦音楽大学ウインドオーケストラ)
-------	---	--



2月8日	土	東邦音楽大学大学院 修士課程学位審査修了演奏会
2月9日	日	
2月11日	火祝	



2月22日	土	パフォーマンス総合芸術文化専攻卒業制作発表
-------	---	-----------------------



3月8日	土	東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 卒業代表演奏会
------	---	-------------------------



財 務 の 概 要

1. 決算の概要

(1) 令和6年度の状況

①概況

令和6年度、前年度対比、収入面では入学者の減少により学生生徒等納付金が5百万円、前受金収入が4百万円減少している。付帯事業(各種演奏会・イベント収入)も前年を2百万円下回る結果となった。支出面では人件費が2千5百万円増加している。これは、退職金が31百万円増加したためで一過性のものである。

主な計算書類の状況は次のとおりである。

②資金収支計算書

資金収支計算書は(第1表)に示すとおりで、収入総額(前年度繰越支払資金を除く)は13億3千9百万円、支出総額(翌年度繰越支払資金を除く)は14億9千7百万円で 1億5千8百万円の支出超過となった。

収入では、前年度に比べ、学生生徒等納付金が5百万円、寄付金が43百万円、付帯事業が2百万円減少、補助金は2千6百万円増加した。このうち1千9百万円は、前年度短大定員割れによる不交付分の復活が要因となっている。

支出では、人件費が25百万円増加、これは退職金が31百万円増加した一過性のものである。

翌年度繰越支払資金は、前年度比1億5千8百万円減の7億7千8百万円となった。

③事業活動収支計算書

事業活動計算書は(第3表)の様に支出超過が続いているが、当年度収支差額は前年度に比べ1千6百万円の増加となった。これは、全体的な経費圧縮の取組によるものである。

特別収支差額は前年度にあった施設設備寄付金4千2百万円分減少したものの、八王子の土地売却差額4千6百万円により2百万円増加となっている。

翌年度への繰越収支差額は、前年度比△3億8百万円減少し、△68億7千1百万円になった。

④貸借対照表

貸借対照表は(第5表)で示すとおり、資産の部合計は前年度比△3億2千1百万円の123億7千9百万円になった。

純資産の部合計は、前年度比△3億4百万円減の117億3千3百万円となった。

(2) 平成29年度以降の状況

平成29年度から令和3年度までの状況は、学生生徒等納付金については令和元年度に歯止めがかかったかに見えたが、令和2年度には減少し、令和3年度、令和4年度、令和5年度で対前年微増となるも、当年度は微減となった。引き続き学生生徒募集への注力と人件費、経費の削減に取り組んでいく。

一方、文京キャンパス売却に伴い、令和7年度から附属中学・高校の新規募集を停止することとなった。今後、更なる選択と集中により、有効な施策を講じ、収支改善に注力していく所存である。

貸借対照表では、資産の部、純資産の部ともに残高が減少しているが、(第6表)の貸借対照表関連財務比率の経年変化からも分かるように、「流動比率」が高水準、「総負債比率」、「負債比率」が低水準となっている。

これらは、本学園は短期的な支払能力が高いことを、また純資産額に比べ負債が極めて少ないことを示している。

(3) 資金収支計算書関係

(第1表) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

収入の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度①	令和6年度②	増減(②-①)
学生生徒等納付金収入	712,247	721,217	735,109	747,196	742,028	△ 5,168
手数料収入	8,079	7,490	7,684	7,848	6,729	△ 1,119
寄付金収入	2,899	12,270	2,110	45,230	2,410	△ 42,820
補助金収入	242,271	204,190	211,102	188,481	214,584	26,102
資産売却収入	0	100,000	110,000	601	46,600	45,999
付随事業収入	34,016	41,891	48,425	54,844	52,623	△ 2,221
受取利息・配当金	3,061	2,593	2,300	2,328	2,604	276
雑収入	23,164	89,637	34,533	59,421	26,682	△ 32,739
借入金等収入	0	500	0	0	0	0
前受金収入	172,578	159,232	170,623	151,380	147,176	△ 4,204
その他の収入	319,311	314,391	348,625	300,247	255,414	△ 44,834
資金収入調整勘定	△ 183,568	△ 264,753	△ 194,683	△ 233,308	△ 158,255	75,052
前年度繰越支払資金	1,555,749	1,361,567	1,209,417	1,132,344	936,291	△ 196,053
収入の部合計	2,889,812	2,750,228	2,685,245	2,456,613	2,274,886	△ 181,728
支出の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度①	令和6年度②	増減(②-①)
人件費支出	788,682	837,619	743,505	755,981	780,536	24,554
教育研究費支出	302,641	277,397	329,416	357,557	352,696	△ 4,862
管理経費支出	146,688	150,790	138,576	134,562	130,875	△ 3,687
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	200	0	0	0	500	500
施設関係支出	21,450	32,217	12,415	18,568	12,107	△ 6,461
設備関係支出	31,146	21,854	17,206	6,038	15,072	9,034
資産運用支出	1,994	1,940	3,890	20,350	13,375	△ 6,975
その他の支出	300,885	343,712	366,256	313,660	303,063	△ 10,597
資金支出調整勘定	△ 65,443	△ 124,721	△ 58,363	△ 86,394	△ 111,210	△ 24,816
翌年度繰越支払資金	1,361,567	1,209,417	1,132,344	936,291	777,872	△ 158,419
支出の部合計	2,889,812	2,750,228	2,685,245	2,456,613	2,274,886	△ 181,728

※科目毎に千円未満の端数を切り捨てていますので、合計数値と合わない場合があります。

(第2表) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度①	令和6年度②	増減(②-①)
教育活動による資金収支						
教育活動資金収入計	1,008,768	1,058,612	1,031,569	1,049,330	1,041,696	△ 7,634
教育活動資金支出計	1,236,518	1,265,035	1,210,876	1,248,100	1,263,968	15,868
差引	△ 227,749	△ 206,423	△ 179,307	△ 198,770	△ 222,272	△ 23,501
調整勘定等	12,018	△ 21,963	17,639	△ 42,012	49,989	92,001
教育活動資金収支差額	△ 215,731	△ 228,386	△ 161,668	△ 240,783	△ 172,283	68,500
資金設備等活動による資金収支						
施設設備等活動収入計	2,600	11,970	111,910	43,631	49,960	6,329
施設設備等活動支出計	52,596	54,071	29,620	24,606	27,179	2,572
差引	△ 49,996	△ 42,101	82,290	19,024	22,781	3,757
調整勘定等	17,546	△ 6,711	△ 10,707	419	13,779	13,361
施設設備等活動資金収支差額	△ 32,449	△ 48,813	71,583	19,443	36,561	17,117
小計 (教育活動資金収支差額+施設設備等活動資金収支差額)	△ 248,181	△ 277,200	△ 90,085	△ 221,339	△ 135,722	85,617
その他の活動による資金収支						
その他の活動資金収入計	292,120	406,189	258,415	284,464	223,798	△ 60,666
その他の活動資金支出計	238,113	281,156	245,405	275,566	246,361	△ 29,205
差引	54,006	125,032	13,009	8,898	△ 22,563	△ 31,461
調整勘定等	△ 8	17	2	16,388	△ 134	△ 16,522
その他の活動資金収支差額	53,998	125,050	13,012	25,286	△ 22,697	△ 47,983
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	△ 194,182	△ 152,149	△ 77,073	△ 196,053	△ 158,419	37,634
前年度繰越支払資金	1,555,749	1,361,567	1,209,417	1,132,344	936,291	△ 196,053
翌年度繰越支払資金	1,361,567	1,209,417	1,132,344	936,291	777,872	△ 158,419

※科目毎に千円未満の端数を切り捨てていますので、合計数値と合わない場合があります。

(4)事業活動収支計算書関係

(第3表) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(1)	令和6年度(2)	増減((2)-(1))
事業活動収入の部						
学生生徒等納付金	712,247	721,217	735,109	747,196	742,028	△ 5,168
手数料	8,079	7,490	7,684	7,848	6,729	△ 1,119
寄付金	299	352	228	2,200	310	△ 1,890
経常費補助金	242,271	204,190	211,102	188,481	213,434	24,953
付随事業収入	34,016	41,891	48,425	54,844	52,623	△ 2,221
雑収入	12,332	84,005	39,983	51,055	31,171	△ 19,884
教育活動収入計	1,009,247	1,059,149	1,042,531	1,051,625	1,046,295	△ 5,329
事業活動支出の部						
人件費	790,759	838,974	743,947	755,371	755,398	27
教育研究費	450,351	430,216	481,802	508,064	494,399	△ 13,665
管理経費	163,380	166,877	157,678	152,038	147,511	△ 4,526
徴収不能額等	2,312	2,751	2,482	1,893	3,344	1,451
教育活動支出計	1,406,803	1,438,819	1,385,908	1,417,366	1,400,652	△ 16,714
教育活動収支差額	△ 397,556	△ 379,670	△ 343,378	△ 365,741	△ 354,356	11,385
事業活動収入の部						
受取利息・配当金	3,061	2,593	2,300	2,328	2,604	276
その他の教育外収入	9,172	4,924	5,401	9,871	0	△ 9,871
教育活動外収入計	12,234	7,517	7,700	12,199	2,604	△ 9,595
事業活動支出の部						
借入金等利息	0	0	0	0	0	0
その他の教育外支出	0	0	0	0	138	138
その他の教育外支出計	0	0	0	0	138	138
教育活動外収支差額	12,234	7,517	7,700	12,199	2,466	△ 9,733
経常収支差額	△ 385,321	△ 372,152	△ 335,678	△ 353,542	△ 351,890	1,652
事業活動収入の部						
資産売却差額	0	0	0	601	46,032	45,431
その他の特別収入	4,983	15,431	2,549	45,543	3,971	△ 41,572
特別収入計	4,983	15,431	2,549	46,144	50,003	3,859
事業活動支出の部						
資産処分差額	46	1,780	59,568	336	2,164	1,828
その他の特別支出	27,696	775	785	6	2	△ 4
特別支出計	27,742	2,556	60,354	341	2,165	1,824
特別収支差額	△ 22,759	12,874	△ 57,805	45,802	47,838	2,035
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度(1)	令和6年度(2)	増減((2)-(1))
基本金組入前当年度収支差額	△ 408,081	△ 359,277	△ 393,482	△ 307,740	△ 304,053	3,687
基本金組入額合計	△ 31,574	△ 49,803	△ 36,546	△ 16,335	△ 3,588	12,748
当年度収支差額	△ 439,656	△ 409,081	△ 430,028	△ 324,075	△ 307,641	16,435
前年度繰越収支差額	△ 5,162,321	△ 5,601,977	△ 6,011,060	△ 6,244,036	△ 6,563,543	△ 319,507
基本金取崩額	0	0	197,052	4,568	40	△ 4,529
翌年度繰越収支差額	△ 5,601,977	△ 6,011,059	△ 6,244,036	△ 6,563,543	△ 6,871,144	△ 307,601

(参考)

事業活動収入計	1,026,464	1,082,098	1,052,780	1,109,968	1,098,902	△ 11,065
事業活動支出計	1,434,546	1,441,376	1,446,262	1,417,707	1,402,955	△ 14,752

※科目毎に千円未満の端数を切り捨てていますので、合計数値と合わない場合があります。

(第4表) 事業活動収支計算書関連財務比率の経年比較

	計算式	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費比率	人件費 経常収入	77.4%	78.7%	70.8%	71.0%	72.0%
教育研究経費比率	教育研究経費 経常収入	44.1%	40.3%	45.9%	47.8%	47.1%
管理経費比率	管理経費 経常収入	16.0%	15.6%	15.0%	14.3%	14.1%
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 事業活動収入	△ 39.8%	△ 33.2%	△ 37.4%	△ 27.7%	△ 27.7%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 経常収入	69.7%	67.6%	70.0%	70.2%	70.7%
経常収支差額比率	経常収支差額 経常収入	△ 37.7%	△ 34.9%	△ 32.0%	△ 33.2%	△ 33.5%

(5)貸借対照表関係

(第5表) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度①	令和6年度②	増減(②-①)
固定資産	12,310,313	12,168,215	11,852,164	11,700,938	11,591,911	△ 109,028
有形固定資産	11,658,932	11,545,798	11,237,426	11,096,322	10,964,730	△ 131,592
特定資産	541,100	513,782	508,027	500,000	524,318	24,318
その他の固定資産	110,280	108,634	106,712	104,617	102,862	△ 1,755
流動資産	1,482,677	1,309,683	1,161,499	999,504	787,561	△ 211,943
資産の部合計	13,792,990	13,477,899	13,013,662	12,700,442	12,379,472	△ 320,970
固定負債	315,533	317,387	307,157	305,147	280,009	△ 25,138
流動負債	379,542	421,874	361,351	357,881	366,101	8,220
負債の部合計	695,076	739,262	668,508	663,028	646,110	△ 16,918
基本金	18,699,892	18,749,696	18,589,190	18,600,957	18,604,505	3,548
繰越収支差額	△ 5,601,977	△ 6,011,059	△ 6,244,036	△ 6,563,543	△ 6,871,144	△ 307,601
純資産の部合計	13,097,914	12,738,636	12,345,154	12,037,414	11,733,361	△ 304,053
負債及び純資産の部合計	13,792,990	13,477,899	13,013,662	12,700,442	12,379,472	△ 320,970

※科目毎に千円未満の端数を切り捨てていますので、合計数値と合わない場合があります。

(第6表) 貸借対照表関連財務比率の経年比較

(単位:年・%)

	計算式	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
運用資産余裕比率	運用資産-外部負債 事業活動支出	1.4年	1.2年	1.2年	1.0年	0.9年
流動比率	流動資産 流動負債	390.6%	310.4%	321.4%	279.3%	215.1%
総負債比率	総負債 総資産	5.0%	5.5%	5.1%	5.2%	5.2%
負債比率	総負債 純資産	5.3%	5.8%	5.4%	5.5%	5.5%
前受金保有率	現金預金 前受金	788.9%	729.8%	663.5%	618.4%	455.8%
基本金比率	基本金 基本金要組入額	99.9%	99.9%	99.5%	100.0%	99.9%

2. 有価証券、借入金等の状況

① 有価証券の状況

(第7表) 令和6年度末(令和7年3月31日現在)保有有価証券

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 権	100,000	98,820	△ 1,180

② 借入金の状況

該当なし

(単位:千円)

③ 学校債の状況

該当なし

④ 寄付金の状況

令和6年度には、特別寄付金200千円、施設設備寄付金2,210千円、現物寄付721千円、合計3,131千円の寄付があった。

⑤ 補助金の状況

令和6年度には、国庫補助金88,495千円、地方公共団体補助金119,564千円、東京都私学財団補助金5,375千円 合計213,434千円の補助金があった。

⑥ 収益事業の状況

該当なし

⑦ 関連当事者との取引状況

該当なし

⑧ 学校法人間財務取引

該当なし

3. 財産目録
(第8表)

財産目録(令和7年3月31日現在)

(単位:千円)

科 目	摘 要	金 額
(一)基本財産		
有価固定資産		10,964,730
土地	東京都文京区大塚校地ほか	6,884,151
建物	文京・川越キャンパス建物ほか	3,664,276
構築物	文京・川越キャンパス構築物ほか	17,577
教育用・管理用機器備品ほか		39,674
図書		359,052
積立金		500,000
施設設備拡充特定資産		500,000
その他固定資産		2,862
電話加入権ほか		2,862
基本財産合計		11,467,592
(二)運用財産		
現金・預金ほか		911,880
運用財産合計		911,880
資産額合計		12,379,472

科 目	摘 要	金 額
固定負債		280,009
長期借入金		0
退職給与引当金		280,009
流動負債		366,101
未払金ほか		366,101
負債額合計		646,110

正味財産額		11,733,361
-------	--	------------

※科目毎に千円未満の端数を切り捨てていますので、合計数値と合わない場合があります。

4. 主な財務関連用語の説明

資金収支計算書

教育研究等の諸活動に対して生ずるすべての資金収入及び資金支出の内容を明らかにして、支払資金のてん末を明らかにするものです。

事業活動収支計算書

教育活動収支、教育活動外収支及び特別収支の3つの活動別の収支ごとに事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにして、かつ年度収支の均衡状態を明らかにするものです。

貸借対照表

年度末の資産、負債及び純資産の状態を表すものです。

資金収支計算書及び事業活動収支計算書の主な共通科目

＜学生生徒等納付金収入＞

学生生徒等から納入される授業料、入学金、実験実習料、施設設備資金等の収入です。

＜手数料収入＞

入学検定料、試験料や証明書発行に係る手数料収入です。

＜寄付金収入＞

金銭その他の資産を寄贈者から贈与されたもので、補助金収入とにならないものをいいます。

事業活動計算書では、施設設備の拡充等に対するものは「施設設備寄付金」として特別収入に計上され、それ以外は教育活動収入に計上されます。

＜補助金収入＞

国または地方公共団体からの助成金をいい、事業団及びこれに準ずる団体からの助成金を含みます。

事業活動収支計算書では、施設設備の拡充等に対するものは「施設設備補助金」として特別収入に計上され、それ以外は教育活動収入の「経常費等補助金」に計上されます。

＜付随収入・収益事業収入＞

学校法人の教育研究活動のうち、付随的に生ずる事業収入で、学生生徒等の教育活動の補助的活動収入、外部からの委託を受けて行う受託収入、寄附行為に記載した収益事業からの繰入収入等が計上されます。

＜受取利息・配当金収入＞

金融資産の受取利息や配当金です。

＜雑収入＞

資金収入科目のうち、学生生徒等納付金収入から受取利息・配当金までの各科目以外の収入で、施設設備利用料収入、私立大学退職金財団交付金収入等を計上しています。

＜人件費＞

教職員等に支給する本俸・期末手当・各種手当、退職金財団掛金等です。

＜教育研究経費＞

教育研究活動や学生生徒等の修学支援・課外活動支援に支出する経費です。

＜管理経費＞

総務・人事・経理業務や学生・生徒募集活動等、教育研究活動以外の活動に支出する経費です。

資金収支計算書のみに計上される主な科目

＜資産売却収入＞

土地、建物、教育研究用機器備品、管理用機器備品等の施設設備の固定資産売却及び有価証券の売却に係る収入です。

＜前受金収入＞

翌年度分の学生生徒等納付金等が当年度に納入されたものです。

＜その他の収入＞

学生生徒等納付金から前受金収入までの各収入科目に含まれない収入です。前期末未収入金収入、預り金受入収入が主なものです。

＜資金調整勘定(資金収入調整勘定・資金支出調整勘定)＞

資金収支計算書には、資金収入調整勘定(期末未収入金・前期末前受金)と資金支出調整勘定(期末未払金・前期末前払金)が含まれています。資金収支は、当該年度における支払資金の実際の収支だけで計算したものでは不十分なため、前年度以前に収入、支出されたもので当年度の活動に属するものと、翌年度以降に収入、支出となるもので当年度の活動に属するものを含めて計算します。すなわち、支払資金の実際の収支と当年度の諸活動に対する収支とを一致させるための科目が資金調整勘定です。

＜施設関係支出＞

土地、建物、構築物等の取得に係る支出です。建物は、附属する電気、給排水、冷暖房等の施設設備を含みます。

＜設備関係支出＞

教育研究用機器備品、管理機器備品(本学においては取得価額が10万円以上のものが基準となっている。但し例外あり。)、図書等の取得に係る支出です。

＜資金運用支出＞

有価証券の購入や特定資産として積み立てるための支出です。

＜その他の支出＞

人件費支出から資金運用支出までの各支出科目に含まれない支出です。主なものは預り金支払支出、前期末未払金支出であり、預り金支払支出として給与等に係る源泉所得税等、前期末未払金支払支出として共済掛金・退職金掛金等を計上しています。

事業活動収支計算書のみに計上される主な科目・名称

＜事業活動収入＞

事業活動収入とは、教育活動及び教育活動外から得られる経常的な収入とその他の活動から得られる臨時的な収入の合計をいいます。

＜事業活動支出＞

事業活動支出とは、教育活動及び教育活動外から発生する経常的な支出とその他の活動から発生する臨時的な支出の合計をいいます。

＜教育活動収支＞

教育活動収支とは、教育活動に係る収支であり、経常的な収支のうち教育活動外収支以外のものをいいます。

具体的には、教育活動収入には、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入などが該当します。教育活動支出には、人件費、教育研究経費、管理経費などが該当します。なお、施設設備の取得に対する補助金、寄付金は、臨時的な収入として下記「特別収支」の特別収入に計上されます。

＜教育活動外収支＞

財務活動等に係る事業活動収入及び事業活動支出の収支をいいます。具体的には、教育活動外収入には、特定資産運用収入、その他の受取利息・配当金などが該当します。教育活動外支出には、借入金等利息などが該当します。

＜経常収支＞

経常収支とは、経常的な事業活動による収支のことで、臨時的な収支である特別収支を除いた教育活動収支及び教育活動外収支の合計をいいます。

＜特別収支＞

特別収支とは、臨時的な事業活動に係る収支で、教育活動収支及び教育活動外収支以外のものをいいます。

具体的には、特別収入には、資産売却差額、施設設備寄付金、現物寄付、施設設備補助金、過年度修正額などが該当します。特別支出には、資産処分差額、災害損失、過年度修正額などが該当します。

＜現物寄付＞

金銭ではなく物品による寄付です。資金の移動がないため事業活動収支計算書固有の科目になります。

＜資産売却差額＞

有価証券や教育研究用機器備品などを売却し、その売却収入が帳簿価額を超える場合、その差額を計上したものです。

＜基本金組入額＞

学校法人が教育活動を行っていくためには、校地、校舎、機器備品、図書、現預金などの資産を保有し、これを永続的に維持する必要があります。そのため学校会計では、当該年度にこれらの取得に充当した金額を基本金に組み入れる仕組みとなっています。この基本金の対象は「学校法人会計基準」において、次の4つに分類し規定されています。

第1号基本金: 設立当初に取得した固定資産並びに設立後新たな学校の設置、学部学科の増設、定員や実員の増加による規模の拡大及び教育の充実向上のために取得した固定資産の価額。

第2号基本金: 第1号の資産を将来取得するために充てる金銭その他の資産の額。

第3号基本金: 基金として継続的に保持し、且つ運用する金銭その他の資産の額。

第4号基本金: 恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額。

＜減価償却費＞

時間の経過により老朽化することで価値が減少する固定資産について資産としての価値を減少させるために計上する費用です。

＜資産処分差額＞

資産を使用不能等により除却、廃棄した場合、資産の帳簿価値を資産処分差額として計上します。

貸借対象表に計上される主な科目

＜有形固定資産＞

土地、建物、構築物、教育研究用機器備品、図書等の実態のある資産で会計年度末後1年を超えて使用される資産です（耐用年数が1年未満となった使用中の資産も含まれます）。

＜有価証券＞

会計年度末後1年を超えて保有するものは「その他の固定資産」、一時的な保有のものは「流動資産」に計上します。

＜特定資産＞

校舎その他施設の増設、改築等将来の特定の支出に備えるために資金を留保するために計上する科目です。

＜現金預金＞

現金、銀行預金、郵便貯金等で、この金額は資金収支計算書の「翌年度繰越支払資金」と一致します。